

## 事業完了（廃止等）報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和元年7月23日 ～ 令和2年3月13日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅰ・Ⅱ・㊦・Ⅳ》</p> <p>【布施中・意岐部中】</p> <p>ア、教育課程に関すること</p> <p>イ、教職員の配置・研修に関すること</p> <p>ウ、環境整備に関すること</p> <p>エ、その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>【布施中】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「確保法」施行以来、「学び直し」の生徒も入学してきた。</li> <li>・東大阪市教育委員会が策定した夜間学級再編整備計画によりこれまでの長栄中学校夜間学級と布施中学校の夜間学級が合わさり4月からスタートした。</li> <li>・新渡日の外国人の入学(特に中国・ネパール人生徒)が増えてきている。</li> <li>・依然として未就学の高齢者も在学している。</li> </ul> <p>以上のことを踏まえ、様々な状況を抱える生徒に対応できるよう教育課程の構築を目指す。具体的には昼の中学生と同じ9教科の学びを軸に、進学をめざす生徒には選択授業を行い、学力の定着を目指す。新渡日の外国人生徒には教科の学習を通して日本語の習得、日本の文化・生活習慣を学べる授業を展開する。また、新しい場所に開校した新校舎の学習環境整備をすすめる。新校舎は4年前まで夜間学級があった旧太平寺中学校跡地に建設されたこともあり、古くからの地域の方々は夜間学級への理解もあるが、より広く地域に知ってもらうために開級式には校区の3連合自治会長にも出席いただいた。そして、夜間学級の開級と同時に地域の方々にグラウンド、体育館の施設解放を行い、投票所としても夜間学級の多目的室も利用してもらっている。学校内外の掲示板や夜間中学校祭り、新入生募集のチラシ配布など、地域に広く夜間学級の存在をアピールしたい。</p> <p>【意岐部中】</p> <p>東大阪市立中学校夜間学級再編整備計画により、2019年4月、新</p>

	<p>しく意岐部中学校夜間学級が開級した。夜間学級の必要度は、法改正もあいまって日増しに高まってくるものと思われる。そこで以下の点にねらいを定めて、調査研究を進めていくものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本に戦前から在住する在日韓国・朝鮮人を含めた、義務教育未就学の高齢者の方は今後さらに減少していくものと思われ、替わって、既卒学び直しの方のニーズが増加していくものと思われる。また、既卒学び直しの方の中には、身体的、精神的、家庭的に様々な問題を抱えた方が多く見られ、学習面もさることながら、多面的な角度で支えていく必要がある。本市の福祉事務所やDV被害者のサポートを行っているNPO法人などの関係機関との連携も重要となってくる。生徒支援の方法について工夫・改善をねらいとする。</li> <li>・夜間学級では、渡日からの年数が浅い「新渡日」と呼ばれる生徒数が急激に増加しているのが現状である。在籍生徒のほぼ9割近い生徒が新渡日の外国籍で、国籍も、中国、フィリピン、ベトナム、ネパールなど多岐に及んでいる。外国人生徒は、在籍年数の違いや渡日の経緯によって、日本語理解の能力に差があるため、学習指導の中に日本語教育も必要で、生徒個々の状況に応じた、きめ細やかな指導が課題である。教職員は教材研究に関して、互いに協力しながら調査研究を日々重ねている。授業形態にも工夫を重ね、各先生方の持ち時間に工夫を凝らしてやり繰りし、必要に応じて抽出授業や授業への入り込みを行っている。一人ひとりの日本語能力の実態に応じた指導形態をさらに研究し、工夫や改善をねらいとする。</li> <li>・再編整備され、新しい場所に設置されたことを本夜間学級から周辺地域へ周知する方法として、発表会やポスターの掲示などの方法を研究していく。</li> </ul> <p>以上のことを踏まえ、2019年度もさらなる調査研究を行うものとする。</p>
調査研究の成果	<p>【布施中】</p> <p>ア、教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での教科研究会及び研修会の定例開催 毎月1回、教科ごとの研究・研修を実施。</li> <li>毎月1回、生徒情報交換と生徒の生活背景の理解を深める研修会を実施。</li> </ul>

・意岐部夜間中学との合同研修会の実施

2ヵ月に1回、東大阪市の夜間中学として、多種多様化する生徒の学びの目的を果たすための研修会、および教科研究研修

イ、教職員の配置・研修に関すること

・新渡日外国人の教育や在留資格に関する研修会

・有識者を招聘した研修会の実施

ウ、環境整備に関すること

・新校舎の学習環境の整備

夜間中学の「学び」や学習に役立つ掲示の整備。

エ、その他夜間中学における教育活動充実に関すること

・広く夜間中学を知ってもらうことと、夜間中学生の「発信する力」「表現する力」を育むための発表会を実施。

・多国籍の生徒が安心して学べる環境を作るために、通訳を交えた生徒懇談会を毎月1回開催。

#### 【意岐部中】

新しい場所に開級したことから、29人の新入生が入学した。中国残留邦人家族親戚や「学び直し」の生徒も増え、生徒の背景を一人ひとりつかんでいながら、授業の展開をしていく。そのためにも学校内での情報共有が重要となってくる。

【7月】生徒の情報交換。問題解決のための検討。

教科研究・・・日本語の習熟度別の分けたクラスに合わせた教材の吟味と検討。

【8月】布施中学校との夏季合同1日研修。年間行事の確認。各校の生徒の情報交換。今後の新たな指導方法についての協議。

【9月】夏休みを経過しての生徒情報交換。

教科研究・・・一学期を終えて、夜間中学での学習内容に対する満足度や期待することなどを聞き取りながら、教材の検討や指導法について研修。

【10月】引き続き、生徒の情報交換。問題解決のための検討。

教科研究・・・9月の生徒の声を反映させた教材での授業が、生徒にとってどうとらえられたのかの検証。加えて現代社会教材の検討や指導法について研修。

【11月】引き続き、生徒の情報交換。問題解決のための検討。  
教科研究・・・多国籍の生徒を抱える夜間中学として世界の諸民族の言語や文化にかかわる教材について研修。

【12月】引き続き、生徒の情報交換。問題解決のための検討。  
教科研究・・・各教科別に教材交流を行い、情報交換をする。文集「おとなの中学生」製作開始。

【1月】2月作品展に向けて、生徒の生活が表せるような美術作品製作の計画、出品準備。また、文集製作経過の確認と修正。

【2月】生徒の情報交換。次年度に向けての一人ひとりが生き生きと学べるための個々の課題整理と対策を検討。  
引き続き、文集作成作業。

【3月】1年間の夜間中学での「学び」の集大成としての文集となっているのかを再確認したうえで製本、完成。  
教科研究・・・1年間の反省と、次年度の年間計画の研究協議。

校内の定例研修・・・

表現部会は、生徒自身が自分の生き方を振り返り自己表現力を高めていくための研究を進めた。

各教科部会では、生徒の生活の中にある、あるいはこれまでに経験してきたことが、それぞれの教科の中で捉え直すための工夫・研究を1ヶ月に各1回実施。

布施中学校との合同研修・・・

定例合同研修は学期中に年4回。夏季休業中に1日合同研修を行い、東大阪の夜間中学の役割やあり方と実体の違いやそこから生じる課題を共有。